強くしなやかな
JR産業を築くために
組織と運動を磨き、責任ある活動を
全力で推し進めよう!

JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION
http://www.jr-rengo.jp

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10
東興ビル9階
TEL（NTT）03-3270-4590
FAX（NTT）03-3270-4429
1部20円（但し組合費に含む）
●発行者／荻山市朗　●編集者／宮野勇馬
facebook JR連合
X（旧twitter） JR連合

連合シンポジウム「いま、労働基準関係法制に求められるもの」
従業員組織は憲法で保障された労働組合の代替とはなり得ない

労働組合の活性化に繋がる法制策の必要性などについて訴えた

10月31日、連合は都内において、シンポジウム「いま、労働基準関係法制に求められるもの」を開催した。

本シンポジウムは、「働き方改革」による労働基準法の改正から5年が経過する中、改めて真に働く者のための労働基準関係法制はどうあるべきかを組織内外に問うことを目的に開催された。

パネルディスカッションでは、構成組織から選ばれたパネリストとしてJR連合から相良夏樹組織局長が討論に参画し、JR連合としての考え方を披歴した。

冒頭、主催者を代表し芳野友子連合会長は、これまでの運動を振り返るとともに、「今後、労働者保護の観点からどういった法規制が必要なのかを考える機会としたい」と挨拶し、課題が多い過半数代表者制度の適正化の必要性に触れた。

続いて、澁谷秀行厚生労働省労働基準局労働条件政策課長より、厚生労働省の労働基準関係法制研究会における労働基準法などの見直しの検討状況について説明を受けた後、同研究会のテーマの柱である、労働時間規制と集団的労使関係に焦点をあてた講演を圷由美子弁護士と國武英生小樽商科大学商学部教授から受けた。

シンポジウム後半のパネルディスカッションで相良組織局長は、「働き方改革」を踏まえた労働組合の取り組みや職場の課題、今後の法政策の必要性などについて意見を述べた。特に、労働組合ではない従業員組織が過半数代表となっている実例について、従業員組織には独立性や意見集約機能が欠如しており、憲法で保障された労働組合の代替とはなり得ないことや、集団的労使関係の中核的担い手である労働組合の活性化に繋がる法政策の必要性を訴えた。

相良組織局長

JR連合は、労働組合が中心となる労使コミュニケーションを堅持するため、引き続き連合や関係産別等と連携を深め、取り組みを進めていく。

第18回女性役員意見交換会
女性役員の定着には何が必要か
連合ジェンダー平等推進中央集会にも参画

闊達な意見交換で今後の活動への反映を意思統一

JR連合は10月25日、第18回女性役員意見交換会を開催した。政所大祐事務局長、吉田春菜執行委員のほか4単組10人の女性役員が参画し、連合やJR連合のジェンダー平等・男女平等参画推進に関する計画・目標内容と進捗、課題等について情報共有を行うとともに、闊達な意見交換を実施した。

意見交換会では、課題を共有し、役員の定着に必要な事柄について意見交換を行い、次のような意見が出された。①組織トップの強いメッセージとリーダーシップが必要不可欠、②女性役員だけでなく男性役員が現状を理解し、女性の後輩を育て上げる覚悟を持ち徹底することが大事、③単に女性の声を代弁させるという位置付けではなく、あなたのその能力をこの役職で活かしてほしいといった声掛けで意識は変わる、④非専従役員が仕事と組合活動の両立をできるような活動や役員・担務のあり方が重要、⑤女性役員は独身に偏りがち。結婚しても子育て中でも役員をできるような環境整備が大事等をはじめとする多くの発言のもと、闊達に意見が交わされた。今後の取り組みに反映していくことを意思統一し、意見交換会を終了した。

男女平等参画・ジェンダー平等で持続可能な社会へ

当日は、都内にて2024連合ジェンダー平等推進中央集会も開催され、JR連合から意見交換会参加者12人が現地にて参画した。挨拶に立った連合の芳野会長は、この間取り組みを振り返るとともに、まもなくスタートを切る「ジェンダー平等推進計画・フェーズ2」における組織トップの強いリーダーシップを求めた。

集会では、連合からジェンダー平等推進計画についての基調提起、東京大学の瀬地山角教授から「ジェンダー平等で持続可能な社会を」と題する基調講演があった。

後半は瀬地山教授と芳野会長に加え、連合総研主幹研究員の中村天江氏をパネリストに交えてのパネルディスカッションが行われ、芳野会長は「世界の潮流は女性参画率最低40%」と述べ、乗り遅れずに変革をしていくことの重要性を強く訴えた。

芳野連合会長（左上）と活動への積極参加を誓う

連合2025春季生活闘争中央討論集会
みんなの生活を向上させ、新たなステージを定着させよう

11月1日、連合は都内において2025春季生活闘争中央討論集会を開催した。

主催者を代表して芳野会長は、2024春季生活闘争を振り返るとともに、2025闘争に向けて「みんなの生活向上」「格差是正」「政策・制度の実現」「ジェンダー平等・多様性推進」「仲間づくり」の5点について所見を述べた。

事務局から提起された基本構想では、「慢性デフレに終止符を打ち、賃金、経済、物価を安定した巡航軌道に乗せる」「すべての働く人の生活向上を図り、新たなステージを定着させることをめざす」とした基本スタンスが示された。賃金指標パッケージでは、「賃上げ分3%以上、定昇相当分を含め5%以上の賃上げを目安とする」ことのほか、中小労組などは格差是正分として1%以上を加えた6%以上を目安とすることが示された。

住吉労働政策局長

全体討論では、JR連合から、住吉一家労働政策局長が発言にたち、賃金も物価も上がらないというノルムを変えるため、政府や経営者団体も巻き込んだ意識改革に繋がる取り組みを求めた。また、2024闘争ではヤマ場より先んじて回答する企業が激増したことを踏まえ、採用活動の解禁日とヤマ場の関係に課題認識を持つべきだと指摘した。

連合からは、指針の周知徹底に引き続き取り組むほか、経済団体とのトップ懇などでサプライチェーン全体を見て企業責任を果たすよう働きかけを行うなど、JR連合の主張を踏まえて取り組む考えが示された。

JR連合は、連合方針を踏まえ、みんなの生活を向上させ、新たなステージを定着させるべく、2025春季生活闘争に取り組んでいく。

2025春季生活闘争方針策定に向けた討論を展開

年末手当JR7単組で妥結

JR7単組は、11月26日までに、2024年年末手当について、7単組すべてで妥結した。

組合員の努力によりJR各社で業績が回復する一方、エネルギー価格や食料品の高騰をはじめとする物価上昇が続く中での交渉となった。

各単組は、組合員の負託に応えるべく、単組によっては再回答を求めるなど、最後まで粘り強く交渉にあたった。

JR各単組の妥結状況は、左表のとおり。

2024年「年末手当」要求および妥結状況表

単組名	2024年				2023年		
	要求日	要求内容	妥結日	妥結内容	要求内容	妥結日	妥結内容
JR北労組	10/25	2.9ヵ月 12/13支払	11/26	2.0ヵ月 12/13支払	2.8ヵ月 12/14支払	11/27	1.94ヵ月 12/14支払
JREユニオン	10/21	3.3カ月 12/4支払	11/12	2.9ヵ月 12/3支払	3.0カ月 12/4支払	11/10	2.65ヵ月 +50,000円 12/4支払
JR東海ユニオン	10/11	3.1ヵ月 12/10支払	11/12	3.0ヵ月 12/10支払	3.0ヵ月 12/8支払	11/9	2.95ヵ月 12/8支払
JR西労組	(2/6)	(年間5.7ヵ月)	(3/12)	(年間5.2ヵ月)	(年間5.0ヵ月)	(3/15)	(年間4.2ヵ月)
JR四国労組	10/11	2.3ヵ月 12/6支払	11/22	2.28ヵ月 (ライフプラン含) 12/6支払	2.1ヵ月 12/7支払	11/24	1.65ヵ月 12/7支払
JR九州労組	10/1	3.0ヵ月 12/10支払	11/19	2.55ヵ月 12/10支払	3.0ヵ月 12/8支払	11/17	2.3ヵ月 +0.2ヵ月 12/8支払
貨物鉄産労	10/17	3.19ヵ月 (年4.8ヵ月で夏季手当との差分)	11/14	1.62ヵ月 12/6支払	2.88ヵ月 (年4.5ヵ月で夏季手当との差分)	11/17	1.63ヵ月 12/7支払

自動車連絡会第32回総会
バス産業の諸課題解決に向けて一丸となって取り組む

バス業界をリードしていこうと訴える矢田代表幹事

自動車連絡会は10月28日、松山市内において第32回総会を開催した。全国からJRバス産業で働く仲間が集まり、人手不足をはじめとするバス産業の課題解決に向けて議論を交わした。

冒頭、挨拶に立った矢田尊弘代表幹事（JR西労組西日本JRバス地本執行委員長）は、「依然としてバス産業は深刻な人手不足の状態。危機的状況を利用者にもご理解いただき、運賃改定等の施策を通じて、労働条件の改善を図らなければ、人財確保もままならない。魅力ある産業とすべく、自動車連絡会がバス業界をリードしていこう」と呼びかけた。

また、JR連合からは荻山市朗会長、石川敏也産業政策局長が出席し、代表して荻山会長から「産業を取り巻く環境は厳しく、現状の政局において私たちの政策実現をどう図っていくか、状況を見定めながら取り組む必要がある」と課題提起したほか、2025春季生活闘争や組織の強化・拡大への取り組みを要請した。

総会では、バス産業の持続的な発展に向けた取り組みや安全の確立、各種政策課題の解決、労働条件の改善、組織の強化について、向こう一年間の方針を決定した後、矢田代表幹事による団結がんばろうで締めくくった。

翌日は、伊予鉄バス室町営業所にて、EVバスの運用・整備状況、乗務点呼などの視察を行った。視察後は、伊予鉄バス株式会社、伊予鉄バス労働組合との意見交換を行い、運賃改定による経営課題解決の取り組みや人財確保・定着における課題、EVバスの導入・運用に係る他産業との連携等について情報共有した。

自動車連絡会は、魅力あるバス産業の実現やJRバス労働者の処遇改善に向け、全国の仲間とともに一丸となって取り組んでいく。

自動車連絡会の仲間と伊予鉄バス労使の皆さん

北海道地協第6回定期委員会
運動への理解を拡げ JR連合への総結集に繋げる

北海道地方協議会は10月12日、札幌市内で第6回定期委員会を開催し、向こう1年間の活動方針を決定し、諸活動を力強く展開していく決意を固め合った。

冒頭、昆弘美議長（JR北労組前中央執行委員長・JR連合前副会長）が挨拶に立ち、JR貨物および他社でも発覚が相次ぐ「輪軸組立にまつわる不正問題」等に触れつつ、安全の確立と職場からの取り組みの重要性を訴えた。また、民主化闘争にかかる厳しい組織の現状と課題、現場の組合員の感覚に応えることが重要であるとの認識を示した。さらには第50回衆議院議員総選挙への対応も含め、各単組の役員・組合員の奮起と粘り強い取り組みを要請した。

JR連合を代表して参画した政所事務局長からは、不安全事象続発への危機意識、民主化闘争や政策・政治活動の「見える化」・発信強化の必要性を訴えた。また各社の重要な政策課題を提起し、スケジュールと効果を意識した今後の取り組みの方向性を共有した。

今委員会ではとりわけ、輪軸組立不正問題の発生を受け、これにまつわる労使の取り組みや他社への影響、および各社の不安全事象に関する情報の共有、これらへの対応方の検討が喫緊の課題として討議された。また、衆議院議員総選挙への対応や民主化闘争についても、最前線である職場活動のあり方や、必要な取り組みについて活発な討議が行われた。

その後、人見圭一氏を議長とする新たな役員体制が提起され、すべての議案とともに満場一致で採択された。

最後に参加者で委員会宣言を採択し心合わせを行った。

◇

《新四役》

議　長　人見　圭一（JR北労組）

副議長　菊地　克敏（貨物鉄産労）

事務局長　斎藤　洋治郎（JR北労組）

事務局次長　吉永　和史（貨物鉄産労）

活動の見える化・発信強化の必要性を意思統一

高速鉄道・新幹線ネットワークの拡充で国土の均衡ある持続的な発展へ
～鉄構労と意見交換～

JR連合は11月12日、鉄道運輸機構労働組合（鉄構労）と、整備新幹線計画の推進等をはじめとする産業政策等について、意見交換を実施した。

鉄構労は、新幹線建設や在来線の新線整備等の事業に携わる「鉄道建設・運輸施設整備支援機構（JRTT）」の仲間が集う労働組合であり、交運労協に加盟する仲間でもある。事業の内容からとりわけJR連合との関わりが深く、これまでも定期的に情報交換を行ってきた。

鉄道建設の中でも、特に整備新幹線建設をめぐる環境は、少子化による人口減少に加え、各種資材の高騰や建設業における人手不足などの影響により、一層厳しくなっている。こうした状況を打破するため、JR連合と鉄構労は2023年2月、「地域活性・発展の礎となる鉄道網の構築を目指して～高速鉄道・新幹線ネットワークの構築と計画推進に係る政策提言～」を策定し、関係各所へ高速鉄道の必要性・有用性を訴えてきた。

今回の意見交換では、本提言に記載されている、北海道（新函館北斗～札幌間）・北陸（敦賀～新大阪間）・西九州（新鳥栖～武雄温泉間）・リニア中央各新幹線の早期開業に向けて、現状の課題を確認するとともに、今後の取り組みについて知恵を出し合った。さらに、四国新幹線の整備計画への格上げに向けた調査の早期再開や、新幹線の開業に伴う社会的・経済的な効果を広く考慮したうえで、費用便益比（B／C）によらない便益を検討することなど、幅広く意見を交換するとともに、JR連合が計画している署名活動について理解と協力を求めた。

人口減少局面にはあるものの、高速鉄道・新幹線ネットワークを拡充することが、国土の均衡ある持続的な発展に繋がり、地域・社会の発展に寄与していくことは、これまでの新幹線整備の実績からみても明らかである。引き続き密に連携を行い、高速鉄道・新幹線ネットワーク構築の有用性を訴えていくこととする。

幅広い意見交換で引き続き連携を密に

役員紹介

貨物鉄道産業労働組合（貨物鉄産労）
中央執行委員 鈴木 教仁さん

昨年7月に開催された定期大会において中央執行委員に選出されました鈴木教仁です。教育・広報、グループ労組、男女平等参画運動を担当しています。

2017年に本部青年部長となり、JR連合青年・女性委員会の諸活動を通じ、全国の仲間との交流を深めることができ、様々な知見を得ることで自分自身が大きく成長することができました。現在30歳を越え、20代の自分からステップアップし、これまでの経験を活かしながら、組合活動に励んでいます。グループ関係の取り組みでは、分からないことも多くあり、多方面の方々にご迷惑をおかけしていますが、これからもご協力をよろしくお願いします。

私は、静岡県磐田市に生まれ、2012年4月に入社し、駅担当を経て、現在は静岡総合鉄道部で乗務員をしています。乗務区間は、名古屋～静岡～東京と、日本の大動脈を担当しており、夜間時間帯は、貨物銀座と言われるほど、多くの貨物列車が運行しています。

JR貨物は、9月にデータ改ざんが見つかり、多くのご迷惑をおかけしました。現在、一丸となって信頼回復に取り組んでおり、私の使命として安全最優先の乗務を心掛け務めていきます。

趣味は、海外旅行が好きで、様々な国の文化や食事を知ることや、飛行機・鉄道に乗ることを楽しみにしています。マニアックな国の情報等がありましたら、是非教えてください。

最後に、これからも組合員の声に耳を傾け、より多くの声を拾い、より良い組織創りをめざし努めていく所存です。皆さんのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いします。

こくみん共済 coop NEWS
「たすけあいの輪をむすぶ」
こくみん共済 coop は、
次のステージへ
公式キャラクター
ピットくん
たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済〈全労済〉
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop
「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。